

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070501962		
法人名	社会福祉法人 悦和会		
事業所名	グループホーム こうえつ苑		
所在地	〒800-0207 福岡県北九州市小倉南区沼緑町1丁目 11 - 21 (電話) 093 - 471 - 8215		
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5 - 27		
訪問調査日	平成21年10月27日	評価確定日	平成21年11月15日

【情報提供票より】(21年9月30日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 4 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 7 人 非常勤 11 人 常勤換算 10,8人	

(2) 建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	軽量鉄骨 造り	
	3 階建ての	2 階 ~ 3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 13,500円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	又は1日当たり 1,350 円			

(4) 利用者の概要(平成21年9月30日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	2 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85、2 歳	最低	73 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	・かん養生クリニック ・浜江医院 ・くらとみ歯科クリニック ・松井病院
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

利便性の良い住宅街の一角に、母体法人と併設した、3階建て2ユニットのグループホームこうえつ苑がある。中学校、公民館、福祉センター、病院、スーパー等が隣接し、利用者にも便利な環境である。独自の理念や介護方針を掲げ毎朝唱和している。利用者の能力に応じ可能な限り自立出来る様にし、生きがいや楽しみ事等、日々の暮らしが活力あるものになるように、職員が一丸となって支援している。健康管理は利用者の希望により、かかりつけ医又は提携医に受診できるように支援している。介護方針の中で心身の機能訓練を行い、状態の変化が生じた場合は、早期に対応し実践されている。ホ-ムも開設6年を迎え、地域との交流も盛んで、同一敷地内にある法人グループと、緊急時におけるサポート体制があり家族との信頼も厚いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の改善点は「市町村との連携」「人権教育・啓発活動」「重度化や終末期に向けた方針の共有」「災害対策」の4点であったが「市町村との連携」「災害対策」の2項目は改善されている。「人権教育・啓発活動」「重度化や終末期に向けた方針の共有」は継続して改善に取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は職員全員で取り組み、管理者がまとめて作成している。評価結果についても運営推進会議や職員会議で報告し、目標達成に向けて取り組んでいる。外部評価についても、意義や活用法を話し合っている。
重点項目	運営推進会議は2ヶ月に1回開催されている。自治会長、保健師、家族、ホーム職員で構成され、ホ-ムの現状や行事、外部評価の取り組み状況について報告し、参加者からはタ-ミナルケアについての意見が出されるなど前向きな会議となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
重点項目	苦情受付先をホ-ム内に掲示し、苦情箱を設置している。家族の面会時など意見や要望を聴き、出来るだけ運営に反映できるように努めている。
	町内会と母体施設と合同で納涼祭を開催し、地域の方々も多数参加している。市民センターのふれあい祭りへ参加し、作品を出展したり、利用者が楽しみにしている。地域の幼稚園児や中学生の訪問など、積極的に受け入れ、地域との交流を図っている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	グループホームこうえつ苑独自の理念と介護方針を作り、利用者の尊厳や主体性を大切に、地域とのより良い関係作りを心掛けて、サービス提供をしている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	全職員で毎朝理念と介護方針を唱和し、理念に添ったケアを目指して日々研鑽している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	母体法人と町内会合同での納涼祭や運動会、市民センターでのふれあい祭り、消防署職員参加の餅つき、沼中学の吹奏楽演奏、幼稚園児の演奏会等、地域と積極的に交流をしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員で自己評価表を作成している。評価の意義を理解し改善シートを作成して、改善に結びつけるように取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者の家族、職員、保健師、自治会会長で構成。「市町村との連携」「タ-ミナルケアについて」「外部評価結果の報告とその課題」等を話し合い、サービスの質の向上に繋げている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの研修会や交流会に参加し、市町村と協働し、共にサービスの質の向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	全体会議等において、成年後見制度の内部研修を行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的に「こうえつえん便り」を郵送し、家族の面会時にも報告している。また、行事参加も呼びかけている。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付先をホーム内に掲示し、意見箱を設置している。家族の面会時に、気軽に意見や要望を聴く雰囲気作りに努めている。		
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	各ユニットの職員は固定化し、やむをえない職員の異動では、利用者や馴染みの関係を早く築けるように、コミュニケーションを重視したケアを行っている。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の募集、採用にあたっては、性別や年齢などの制限は無く、介護への思いを重視し採用している。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	利用者の尊厳・人権を守ることは日頃から全職員が心掛けている。		研修会への参加や内部研修を通して、人権意識を高め、利用者へのサービスをさらに充実したものとなるように、前向きに取り組むことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や法人内研修を職員が受ける機会を確保し、職員一人ひとりの介護サービスに対する取り組みとやる気を引き出して、職員の質の向上に繋げている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県高齢者グループホーム協議会や北九州高齢者福祉事業協会に加入し、地域の同業者と交流する機会を持ち、介護サービスの質の向上を高める取り組みを行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者は、利用者や家族に体験入居や見学をし、職員との交流を図り、利用者、家族が納得し、安心してサービスが利用できるような支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者を人生の先輩として尊敬し、教えて貰ったり教えたりの関係で、喜びや悲しみを共有し、共に支えあって暮らしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族や利用者から希望、意向を聴いたり、また、日頃のケアの中で汲み取ったり、利用者個々の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族から要望を聴き、職員会議等でカンファレンスを行い介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにアセスメント、モニタリングを行い、利用者の状態変化に応じて随時、介護計画の見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者、家族の状況に応じて、かかりつけ医の送迎、介助をしている。往診(歯科)やマッサージのサービス利用等、柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者、家族が希望する主治医との関係を大切に、かかりつけ医での受診を支援している。協力医とは24時間連絡体制がとれている。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かかりつけ医と相談しながら支援に取り組んでいる。		重度化や終末期のあり方について、事業所としての指針やマニュアルを作成し、段階ごとに家族、かかりつけ医、介護関係者等と利用者の状態を確認し、対応方針の共有を図っていくことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は常に、利用者個人個人の誇りやプライバシーを損ねるような言葉や対応をしないように努めている。個人の記録等の管理にも注意をはらっている。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の大きな流れはあるが、利用者一人ひとりのペースを大切に、希望に沿って支援している。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員は利用者のその日の状態を把握し、台拭きや下膳、お盆拭き等を手伝ってもらい、楽しい食事になるように支援している。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には利用者は、週3回入浴しているが、利用者の希望や体調に応じ柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
や					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家事活動や利用者の希望に沿った、役割や楽しみごとを提供し、利用者の能力や趣味を活かせるように、支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天候の良い日には体調、希望に応じて散歩やドライブ、買い物等に出かけている。定期的に外食や喫茶店で、利用者の好きな物を飲食している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は居室や玄関には施錠せず、職員が見守りの方向で、自由な生活を支援している。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の協力を得て、母体施設と合同で避難訓練や救急時の対応方法の研修等行っている。非常時の飲料水や非常食を備蓄している。		
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分摂取量を記録し栄養状態の把握をしている。利用者の状態に合わせて、調理方法も工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には、利用者の生けた季節の花や、作品が飾られている。3階は天井が吹き抜けになっていて開放感がある。リビングにはソファを設置し、利用者がくつろげるように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には家庭で使い慣れた家具や生活用品、装飾品等が置かれ、安心して過ごせるように配慮している。		